

2023年度 国税専門官／労働基準監督官／財務専門官 本試験（基礎能力試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率*	講評
1	文章理解 (現代文)	内容把握	3	A	【文章理解（現代文）】 例年どおり、内容把握4題、空欄補充1題、文章整序1題、計6題の内訳であった。No.1の内容把握がやや難しく、No.5の空欄補充が難問であったかもしれない。前者は、4肢を消去法で切ることで正答確定が可能である。後者は、空欄がその直前部「自然法則が自然に対する人間の認識を反映している」を受けていることが正答確定の1つのポイントとなるが、正答できなくとも仕方ない問題とも捉えられる。6題中少なくとも4題、できれば5題以上正答したいレベルである。
2		内容把握	4	A	【文章理解（英文）】 内容把握3題、文章整序1題、空欄補充1題の出題であり、出題内訳は例年と変化していない。内容把握難易度のやや下がった一方で、空欄補充は正答率が2割に満たない難問であった。空欄補充の形式は、昨年の空欄2つで単語とフレーズを入れる問題から一昨年と同様の空欄1つで文を入れる問題に戻った。
3		内容把握	3	A	【文章理解（英文）】 内容把握3題、文章整序1題、空欄補充1題の出題であり、出題内訳は例年と変化していない。内容把握難易度のやや下がった一方で、空欄補充は正答率が2割に満たない難問であった。空欄補充の形式は、昨年の空欄2つで単語とフレーズを入れる問題から一昨年と同様の空欄1つで文を入れる問題に戻った。
4		内容把握	5	A	【判断推理／数的推理】 判断推理：平面・空間図形の認識2題も含めて合計7題出題された。全体としては、昨年並みの難易度で、解きやすい問題が多い印象を受けた。特に、No.12とNo.18の問題は、過去問解きまくりの問題と似ている部分が多く解きやすかったであろう。No.14は時間を要する対応関係の問題であったが、延べ人数の合計数からツツジおよびポピーの花を見た人数を出すことができれば、点数を取ることができたであろう。No.16は、過去問解きまくりにも類題がないため、手が出なかった受験者もいたであろう。しかし、2回目のくじ引き終了後にBが持っていたプレゼントはC又はBのいずれかが持っていることがわかれれば、時間を要するができる問題であった。代数学の「互換」がテーマの問題であった。No.18はフローチャートの問題が出題されたが、繰り返しの部分が2回でよかつたため、解きやすかったであろう。No.19は少し難しいと感じた受験者もいたかもしれない。サイコロの目の配置が上下の2面のみが決まっていたので、残りの4面の目の配置については自由に決めることができる点がポイントであった。
5		空欄補充	1	C	数的推理：空間図形の計量1題を含めた6題出題された。全体としては平易な問題が並び、昨年に比べて難易度が低下した。No.13の問題は、整数解から3桁の整数を作るときの場合の数を求める問題と同じであり、過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」の問題151に類題があったため、解きやすかったであろう。No.20の確率の問題は、場合分けが多く時間を要するが、パターンの把握と計算を丁寧に行うことがポイントであったと思われる。No.21は過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」の問題10にも類題があり、取り組みやすかったと思われる。No.22については、当初の座席をm列n番（左からn番目）とおいて、条件から実際の座席の位置を求め、1番目の人からAさんまで座っている人数に関する方程式を立てることができれば、整数解から解を求めることができた。No.24はAからP Bに垂線を下すことがポイントであった。
6		文章整序	4	A	【資料解釈】 資料解釈は計3題であった。No.25は少し難しかった印象を受けるが、全体としては昨年並みの難易度であった。No.25～No.27の3題すべてが過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」の類題にあったことから、全問解けた人もいたのではないか。No.25の解法のポイントは、生徒数の増減や増減率は、グラフ上の棒グラフが示す指標÷点が示す指標で求めることができた点である。
7	文章理解 (英文)	内容把握	3	A	【時事】 例年どおり3問で、環境問題等、我が国の人口及び高齢化等、世界の都市等からの出題である。環境問題等は、気候変動、脱炭素化、プラスチックごみ、食品ロスと、基本的なテーマが幅広く出題されているオーソドックスな問題である。我が国の人口及び高齢化等は、時事ではなく、一般常識の範囲でも正否の判別ができる平易な問題である。世界の都市等は、社会科学や人文科学の知識が融合された問題であるが、公務員試験の時事問題としては典型的な問題であり、是非得点源としておきたい。いずれの問題も基礎レベルから標準レベルの問題なので、3問中2問以上は正解しておきたい。
8		内容把握	2	A	【自然科学】 2016年以来、物理、化学、生物の3科目からの出題が続いているが、8年ぶりに、物理、化学、地学という出題構成になった。なお、地学は、2013年から2015年までは3年連続で出題されていた。
9		対応関係	4	B	物理：No.31は振り子の運動について、2つの異なる状況におけるおもりの高さの対比が問われた。複数の異なる状況での実験結果の対比は、主なところでは、2019年、2017年、2014年、2013年にも出題されており、問われやすい形式といえる。本格的な計算は不要であるが、力学的エネルギー保存則を理解し、しっかりと考察できるかが問われたが、取り組みにくかったようで、正答率は伸び悩んだ。
10		位置関係	3	A	化学：No.32は原子と分子について、見た目は難しいことが問われているように見えたかもしれないが、高等学校の化学基礎の冒頭で学ぶ知識で、周期表と関連づけた理解ができていれば誤りは容易に見つけることができたが、思ったより正答率は高くなかった。
11		空欄補充	5	C	地学：No.33は気象現象について、日本の四季の気候をベースとして、多角的に基本用語について問われた。久しぶりの地学の出題ではあったが、誤りの記述を見つけ出しやすかったため、取り組みやすかったと思われる。
12	判断推理 ／数的推理	論理（論理式）	4	A	【人文科学】 日本史：江戸時代の対外関係からの出題である。肢1～3までは、繰り返し問われてきた内容であるが、肢4と肢5については「解きまくり」に同様の選択肢がないことから、Kマスターテキストをどこまでしっかりとやっていたかが分かれ目となった。
13		場合の数	2	A	世界史：アメリカ独立からの出題であった。世界史の中では頻出項目であるので、しっかりと対策をした人も多かったと思う。最終結果がでたところが正解肢になる、という典型問題もある。
14		対応関係	2	B	地理：地形の成り立ちや特徴からの出題である。テーマはたいへんオーソドックスであるが、肢1と肢5が従来の出題からみて細かい。
15		位置関係	3	A	思想：中国思想からの出題である。いずれの選択肢もキーワードで選択肢を切ることができ、人文科学の中では最も平易な問題であった。
16		推理	4	A	【社会科学】 例年どおり計3問である。法学は、我が国の国会及び国会議員についてである。いずれの選択肢も基本的な知識を問うもので、平易な問題といえる。経済は、需要曲線と供給曲線である。知識を正確に身につければ、選択肢を絞り込める内容となっているので、比較的容易な問題である。社会は、高度情報社会であるが、情報に関する基本用語を問うものばかりで、正解肢を見出すのは容易といえる。いずれの問題も基礎レベルから標準のレベル問題で、3問すべて正解しておきたい。
17		操作手順	1	B	
18		軌跡	5	A	
19		位相	1	B	
20		確率	4	B	
21		最小公倍数	1	A	
22		整数解	2	C	
23		比・割合	3	A	
24		立体図形の軽量	2	B	
25	資料解釈	グラフ（指数）	2	B	
26		表（実数・構成比）	4	A	
27		表・グラフ（実数・構成比）	5	A	
28	時事	環境問題等	2	B	
29		我が国の人口及び高齢化等	1	A	
30		世界の都市等	4	B	
31	自然科学	振り子の運動	5	C	
32		原子・分子	1	C	
33		気象現象	1	B	
34	人文科学	江戸時代の対外関係	4	B	
35		アメリカ独立	5	B	
36		地形	5	A	
37		諸子百家	2	B	
38	社会科学	我が国の国会及び国会議員	3	A	
39		需要曲線及び供給曲線	5	A	
40		高度情報化社会	1	A	

* 正答率（A : 60%以上、B : 40%以上 60%未満、C : 40%未満）は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』の国税専門官のデータ（6/9 時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員 Web サイトの専用ページ（<https://www.lec-jp.com/koumuin/jukken/seiseki/>）にてご案内しています。



0001112227262

KL22726